

基準財政需要額及び基準財政収入額の算定例

【標準区】...人口35万人の特別区を想定

(例) 経常的経費 民生費 社会福祉費

基準的経費	
社会福祉総務費	600,386,945円
女性福祉資金貸付金	10,807,480円
基準的経費合計 A	4,281,502,411円
特定財源	
国庫支出金	1,013,182,000円
都支出金	247,245,000円
特定財源合計 B	1,404,788,000円
差引一般財源 C = A - B	2,876,714,411円
測定単位の数値 D	350,000人
単位費用 E = C / D	8,219円

標準区とは、単位費用を算出するために、人口等の測定単位が23特別区の平均に近い標準的行政規模をもつと想定した架空の特別区である。

次の補正係数の連乗加算

- 段階補正係数(a)---- 1.121
固定費の影響を補正
 - 密度補正係数 (b)--- 1.185
心身障害者福祉手当支給件数の多少による経費の増減を補正
 - 密度補正係数 (c)--- 1.003
国民年金被保険者数の多少による経費の増減を補正
 - 態容補正係数 (d)--- 1.000
知的障害児通園施設の管理運営経費を加算
 - 態容補正係数 (e)--- 1.388
福祉サービス安定化事業に係る経費を加算
- 連乗加算の方法
 $a+(b-1)+(c-1)+(d-1)+(e-1)$

【A区(人口187,678人)の基準財政需要額】

(例) 経常的経費 民生費 社会福祉費

$$\text{単位費用} \times \text{測定単位} \times \text{補正係数} = \text{算定額}$$

$$8,219\text{円/人} \times (187,678\text{人} \times 1.697) = 2,617,669\text{千円}$$

H15.4.1現在
住基人口+外録人口

補正後の測定単位の数値
318,490人

経常的経費

議会総務費	4,817,971千円
民生費	
社会福祉費	2,617,669千円
老人福祉費	3,233,857千円
生活保護費	1,612,041千円

投資的経費

合計 **45,638,499千円**

【A区の基準財政収入額】

23区全体の基準財政収入見込額
× A区の前3カ年決算調定額のシェア

特別区民税	603,272,345千円 × シェア
軽自動車税	2,090,993千円 × シェア

合計 **13,502,158千円**

【A区の普通交付金算定】

$$\begin{array}{l} \text{普通交付金} \\ \text{(= 財源不足額)} \end{array} = \begin{array}{l} \text{基準財政需要} \\ \text{額} \end{array} - \begin{array}{l} \text{基準財政収入} \\ \text{額} \end{array}$$

$$\begin{array}{l} \text{32,136,341千円} \end{array} = \begin{array}{l} \text{45,638,499千円} \end{array} - \begin{array}{l} \text{13,502,158千円} \end{array}$$